

十和田市立 新渡戸記念館だより

上空から見た太素塚

—パラグライダーから撮影した
航空写真—

このたび十和田警察署会津署長からの紹介で、十和田市のパラグライダー愛好家・漆館良治さんから、太素塚周辺を中心に、上空から撮影した写真を寄贈いただきました。写真は平成16年8月1日8時30分から1時間ほどかけて撮影したもので、基盤の目状の市街地がはっきりと写し出されており、現在の街の様子が良くわかる貴重な資料です。



向かい合う太素塚と澄月寺



◀上方(東)に、黒々と茂っているのが太素塚の杉林。真直ぐ下方に四角く見えるのが、墓地が広がる澄月寺。

澄月寺は、慶応元年(1865)三本木原開拓における都市計画の一貫として建立されました。本寺は、新渡戸傳翁と親交のあった盛岡報恩寺・心月和尚の協力を得て、報恩寺の末寺として建立されました。その関わりから新渡戸傳翁の墓所である太素塚の真正面に建てられ、寺名は傳翁の「常澄」と和尚の「心月」の一字ずつを取って「澄月寺」と名付けられました。

はっきりと写し出される基盤の目状の街



◀中央が旧国道4号(三本木大通り)。右の方(東)に黒く見えるのが太素塚。左の方(西)には野球場や陸上競技場が見える。

上空から撮影すると、十和田市の市街地が基盤の目状にきれいに区画されていることがよくわかります。これは万延元年(1860)頃、新渡戸傳翁の長男・新渡戸十次郎が三本木原開拓の一貫として打ち出した都市計画によるものです。この計画は幕末から現在まで受け継がれ、今の美しい街並みを作り出しています。



◀新渡戸十次郎像

さようなら 新渡戸稲造の五千円札

昭和59年(1984)から20年間、新渡戸稲造は五千円札の顔として親しまれてきました。いよいよ平成16年11月1日に新札が発券され五千円札の肖像は新渡戸稲造から樋口一葉に変わります。肖像に使用される以前は、知名度の低かった新渡戸稲造ですが、「お札の顔」になることで多くの人に知られる良い機会となりました。お札の肖像が変わっても、日本を代表する国際人・新渡戸稲造の精神は、いつまでも人びとに語り継がれていくことでしょう。



▲太平洋を中心とした地球の絵を「太平洋のかけ橋」新渡戸稲造のシンボルとしてデザインした現在の五千円札

新渡戸傳翁 没後133年 命日祭 — 9月29日 —

新渡戸傳翁没後133年命日祭を、9月29日10時30分から太素塚境内で執り行いました。今年は諸般の都合から傳翁の命日の2日後開催となりました。

太素顕彰会役員20人が参列し、太素塚を参拝して新渡戸傳翁の冥福を祈りました。また、境内に設けられた席で茶会を行い、太素顕彰会稲本純一副会長が挨拶の中で、傳翁の開拓精神に学ぶ大切さを述べました。また、新渡戸館長が子孫を代表して「地域と連携した記念館を目指したい」と、抱負とお礼のあいさつをしました。



命日祭に参列の方々

トピックス 太素塚の植物 —うばゆり—

太素塚の杉木立の下を散策していると、様々な植物を見ることが出来ます。太素塚の墓所裏手に大きな「うばゆり」の花を見つけました。7~8月に咲くこの花は、花が咲く時期に葉が枯れる事が多く、花が咲く時期に葉(歯)がないということから、「姥(うば)」にたとえられて名付けられたと言われています。その他にも、色々な種類のゆりが太素塚に咲いています。



▲太素塚の墓所裏手に咲くうばゆり。背が高いのが特徴で、現在は2m近い高さになっています。

博物館実習生レポート

—10日間の実習を終えて—

平成16年度第一期博物館実習では常設展示改善と、企画展「十和田・不思議?ものがたり」の展示補足資料・ミステリースポットマップ等を作成してもらいました。

北海道文教大学外国語学部4年生 佐々木 史子(十和田湖町字権部出身)

10日間の実習で、大学の講義では学べない多くのことを学ぶことができました。記念館内外の清掃、資料の管理や整理、事務的なこと、様々な文書の作成、来館者への展示の案内など、想像以上に仕事が多いということに驚きました。まず、限られた予算の中で資料を管理、保存しなければならず、収蔵庫の温湿度管理や害虫対策を行い、現状維持またはそれ以上の状態を保つよう努力していることを伺い知ることができました。また、小学生の団体見学の補助をした時には、小学生が大人の思い付かないようなことを質問してきます。その質問に私は戸惑うことが多く、学芸員は専門知識だけでなく、それに関するいろいろなことを知らなければならないと感じました。また同時に、三本木原開拓や新渡戸稲造博士のことについて知らなかったことを学ぶことができ、実習生の私にとっては、小学生は先生でもありました。実習課題の展示改善や、展示補足資料の作成では、思うように作業を進められないこともありましたが、来館者のために少しでも見やすいように作成することを心がけながら取り組みました。実習期間中には、十和田市の秋まつりが始まり、この秋まつりが三本木原開拓時代に起源をもっているということも、教えていただきました。10日間では学びきれないことが沢山ありました。館長さんをはじめ、記念館の皆さんにはお忙しい中指導していただき、感謝しています。今後、実習で得た経験を役立てていけるように努力していきたいと思えます。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

ミステリースポットマップには、それぞれの場所の伝説にちなんだ絵をポイントに描くなど、分かりやすく作っていました。



◀裏打ち資料の搬出作業に立ち合った佐々木史子さん(中央)。右は当館資料の裏打ちや軸装をお願いしている赤城表具内装店の赤城泰夫さん。

稲生川上水146年記念企画展

十和田・不思議!?!ものがたり

平成16年8月1日～9月30日

今年の企画展には古牧温泉波沢公園をはじめ、青森県立郷土館、十和田市郷土館から約40点の資料をお借りしました。また、東奥日報に8月17日から8月21日まで、企画展紹介記事を5回連載で掲載していただきました。

三本木のおきつね様

十和田市の中心地が広がる場所は、かつては“狐しか住まない”と言われる原野で、狐にまつわる話が多く残されています。今回の展示ではそのような狐の話を、騒気楼の発生との関係など、裏話とともに紹介しました。

また、当地には「稲生川を通すべき場所を新渡戸傳に知らせた狐」や「新渡戸十次郎の都市計画を手伝った狐」といった、三本木原開拓を助けた狐の話が多く残っています。これは、新渡戸家が代々稲荷神を信仰したことにかかわりがあると言われており、その関係資料を展示し紹介しました。



▲新渡戸家で代々信仰していた安野稲荷神社(花巻市高松)。この神社の手前には、現在花巻新渡戸記念館があります。

十和田市内に残るカッパの話

この地域ではよく“メドチ(=カッパ)に引き込まれるから川には行くな”と子供たちに注意したそうですが、三本木原開拓の事務所日誌『稲生開発留』にも、安政6年(1859)7月14日の項に、今の三本木稲荷神社境内で目撃されたカッパの話が記されています。また、市内藤島と伝法寺を舞台にした、カッパに取られそうになった子供が、父親の機転で助かったという話や、市内相坂の大池神社の近所に、カッパの子を生んだ娘がいたという話もあります。このコーナーは、三沢市の古牧温泉波沢公園(杉本正行社長)から借り受けたカッパの民芸品や浮世絵、有名漫画家の原画など22点とともに、この地域のカッパの民話を紹介しました。



▲制作民話のテープが聞けるコーナーや民話ビデオのコーナーも好評で、地域に残るカッパや狐の話に興味をもった子供たちが、多く来館しました。

十和田市内のミステリースポット

今展では「十和田ミステリーツアー」と題して市内のミステリースポットを郷土史愛好家・沢口肇三夫さんの案内で撮影し紹介しました。

市内最大のミステリースポットである月日山は地域の死者の霊がいったん集まり、下北半島の恐山に向かうと信じられている霊山です。山中にある「日月神社」や「古墳」「賽の河原」と呼ばれる謎めいた遺跡、鷹の爪跡のある岩、「日月山」と刻まれた磨崖碑、切り立った山の斜面に奇岩が立ち並ぶ「膳棚」などを写真パネルで紹介しました。また、市内洞内長根の箭受の杜から明治時代に出土したというの巨人骨や、沢田(十和田湖町)と白上(十和田市)にある八の太郎ゆかりの巨石や、女の怨念で村が滅びそうになったという「湯ノ沢の鶴の伝説」についても、写真とともに関係資料を展示しました。



▲月日山の日月神社にある古い地蔵尊(中央)。この地蔵尊に願い事を話して「叶うなら持ちあげてください」と言って持ち上げると40キロほどもある重いお地蔵様が、叶う時は軽々と持ち上り、叶わない時はどんな力持ちでも持ちあげられないといひます。



▲竹や笹が花を咲かせるのは六十年に一回とも、百年に一回ともいわれていますが、撮影日は、月日山の笹が花盛りでした。

平成16年度太素顕彰会賛助会員ご芳名

(敬称略五十音順・平成16年9月30日現在)

九・十丁目町内会／しらかば町内会／並木第四町内会
橋場町内会／三木野町内会／南小稲町内会

当会の活動への温かいご支援に感謝いたします

ありがとうございました

十和田市教育委員江渡禮子さんから、近年出版され話題となった李登輝の著書『「武士道」解題』の台湾語で書かれた原書を寄贈いただきました。



関連情報

◆故櫻田権十郎氏胸像完成

水土里ネット稲生川(稲生川土地改良区)では、当地方の自治において多くの要職に携わった櫻田権十郎氏(1913～2003)の胸像を同改良区事務所敷地内に建立し7月23日除幕式が行われました。櫻田権十郎氏は初代三本木村長・高岡権十郎の子孫であり、高岡氏は幕末の三本木原開拓において新田肝入



▲櫻田権十郎氏胸像

として新渡戸傳翁の片腕となり働いたことが知られています。また櫻田氏もその開拓精神を受け継ぎ、稲生川土地改良区理事長、三本木原土地改良区連合理事長、青森県土地改良事業団体連合会副会長等を歴任し、地域の土地改良事業等に、特に大きな功績を残しました。

◆「かんぼの宿十和田」での館長講演が記録冊子に

「かんぼの宿」では、地域に根ざしたサービスを目指して、勤簡保加入者サービス協会の主催で郷土の偉人を紹介する文化講演会を開催しています。平成16年3月30日にはかんぼの宿十和田で当館館長の講演会「三本木原開拓と新渡戸三代」が開催され、この講演の記録を参考資料とともにまとめた冊子が同協会から発行となりました。

〈編集後記〉

企画展は無事に終了しました。この取材には、郷土史愛好家の沢口騏三夫さんに大変お世話になったことを感謝します。太素塚境内は、ボランティアの皆様のご厚志により、日に日に植物園化が進み喜ばしいことです。

◆太素塚清掃奉仕

7月4日・8月1日・9月5日 本瀬戸山老成会
9月14日 三本木小学校4年4組
9月20日 【全国奉仕活動の日】
大学通老成会・本瀬戸山老成会
9月27日 商工会議所女性会 ありがとうございました

◆7月1日～9月30日の来館小学校

＜十和田市＞ちとせ小学校／三本木小学校／米田小学校
＜八戸市＞町畑小学校／八戸小学校／八戸聖ウルスラ小学校
＜十和田湖町＞法奥小学校＜七戸町＞七戸小学校
＜六戸町＞大曲小学校／開知小学校＜上北町＞小川原小学校
＜三戸町＞日時小学校

◆中央商店街お神輿秋まつり出陣式を太素塚で行いました。

ちょうど来館中だった小川原小学校の子供たちとともに



活動報告

◆8月1日(日)～9月30日(木) 稲生川上水146年記念企画展「十和田・不思議!?ものがたり」を開催。(詳細3面)

◆平成16年度第1回太素顕彰会理事会・評議員会開催

7月22日「平成16年度第1回太素顕彰会理事会・評議員会」を十和田市民体育センター2階研修室(10:00～)で開催し、平成15年度事業並びに収支決算報告、平成16年度予算案について審議が行われ、原案通り可決されました。

◆日本博物館協会東北支部総会に館長出席

9月16～17日に平成16年度日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会の総会並びに研修会が秋田県立博物館で行われ、館長が出席しました。

◆博物館実習生受け入れ

9月1～12日に北海道文教大学外国語学部4年生佐々木史子さん(十和田湖町宇樽部出身)が学芸員資格取得にかかわる実習を行いました。(詳細2面)

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430
E-mail: mitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/mitobe/
印刷 有限会社 岩間印刷所